

三陸復興国立公園が誕生—三陸の海岸に魅せられて

気仙沼はまだ梅雨が明けません。半袖では肌寒い日もあります。道端には、アジサイの花が満開です。

「東日本大震災の地域再編再生のシンボルとして、三陸地方の自然公園を再編する「三陸復興国立公園」が5月24日に誕生した。計画では、青森、岩手、宮城の3県にある国や県が管理する公園6カ所を復興公園の対象として検討している。24日にはまず岩手県から気仙沼市にまたがる「陸中海岸国立公園」が「三陸復興国立公園」に指定された。今年秋にまず、気仙沼市から石巻市までの5市町村にまたがる「南三陸金華山国定公園」を復興国立公園に指定する予定だ。」（「河北新報」2013年5月25日付け）

三陸の地名について述べます。「三陸」とは、「陸前（今のだいたい宮城県）」、「陸中（今のだいたい岩手県）」、「陸奥（今のだいたい青森県）」、の3地方を言います。昔、京都の朝廷から見て、近くから遠くへ「○前」「○中」「○後」と名付けました。ただ、「陸奥」は本来は「陸後」ではないかと思えます。京都から見て「陸の奥」とは、失礼な名前だと思います。陸奥の人達よ怒れ！ ちなみに陸奥の人達も、東通原発の再稼働を許さないために頑張っています。これは現在の東京駅を中心にして、出発する列車は「下り」、到着する列車は「上り」とするのと同じで、中央からの発想かもしれません。

三陸はリアス式海岸であり、素晴らしい海岸線を持っています。青森県から岩手県・宮城県・福島県までの海岸線の延長は、約1,500kmです。この海岸線に、無数の入り江や湾があります。しかしこれらの入り江や湾こそが、津波のエネルギーを加速させて、津波の被害を最大にしていきました。

「上田さんは心臓に毛が生えている」と稀には言われますが、実際の私は繊細です。仕事の重圧に負けたり、人間関係に落ち込んだり、ホームシックにかかったりします。そういうときには、次の休みの日には、決まって海岸へ行きます。そこは素晴らしい白砂の海岸です。私はそこにいるだけで、気持ちがなごみます。（2人でいるともっとなごみそうですが？） 海岸にいと、自分は所詮一粒の砂に過ぎないと思われます。そうすると悩んでいることがバカらしくなります。

次に、海岸の背後を見渡します。そこは津波の被害にあって、建物の基礎だけしかありません。私はその荒野を見て、「また明日から頑張ろう」と初心に帰ります。

そして、2012年3月11日の気仙沼市追悼式での、遺族代表の三浦美咲さんの言葉に思いをはせます。（美咲さんは、祖父母・父母・妹2人の家族全員を津波で亡くされました。）

「海はたくさん大切な人や思い出を奪ったけれど、私は海が好き。

母たちがいる海が、昔と変わらない海がずっと大好きです。」

【三陸復興国立公園の主な名勝地】

自治体名	八戸市	階上町	久慈市	野田村	普代村
名勝地	種差海岸	階上灯台	あまちゃん	十府ヶ浦海岸	黒崎展望台

自治体名	田野畑村	岩泉町	宮古市	山田町	大槌町
名勝地	北山崎	龍泉洞	浄土ヶ浜	山田湾	崎山展望台

自治体名	釜石市	大船渡市	陸前高田市	気仙沼市
名勝地	御箱崎千畳敷	碁石海岸	奇跡の一本松	岩井崎

〇〇海岸（私だけの海岸なので）



海岸の背後は荒野です

